

令和3年度

豊田市交通安全市民会議

交通安全作品集



豊田市長賞

古賀 平大 (根川小4年)



豊田市議会議長賞

青木 寛菜 (駒場小3年)

横断歩道は
歩行者優先
マナーではなく
ルールです



豊田警察署長賞

石井 結衣 (浄水小6年)

はじめに

豊田市交通安全市民会議では、交通安全作文・交通安全ポスター・交通安全標語を募集しています。作品の制作を通し、作者自身の交通安全意識を高めていただくとともに、作品を公開することにより、多くの方へ交通事故撲滅の願いを届けたいと考えています。

今年もたくさん交通安全作品の応募をいただきました。この「交通安全作品集」に掲載した作品は、交通事故の恐ろしさ、悲しさ、心構えなどをつづった作文、工夫されたデザインや、力強くあるいは繊細に描かれたポスター、そして簡潔でわかりやすく交通安全を訴えた標語で、いずれも厳正な審査を経て選ばれた、すばらしい作品ばかりです。

この「交通安全作品集」を多くの方にご覧いただき、皆様の交通安全意識の高揚と交通事故防止にお役立ていただければと思います。最後に、交通安全作文・交通安全ポスター・交通安全標語をご応募いただきました多くの皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

豊田市交通安全市民会議

会長 深津 澄男

目次

交通安全作文の部

《最優秀作品》 6点……………1ページ

①豊田市長賞	大芝 祐衣	井郷中学校	3年
②豊田市議会議長賞	稲吉 和奏	豊田西高等学校	1年
③豊田警察署長賞	深見 快晟	保見中学校	3年
④足助警察署長賞	小久保 那菜	豊田西高等学校	1年
⑤豊田市教育委員会賞	永田 悠人	小清水小学校	2年
⑥豊田市交通安全市民会議会長賞	山川 遼夏	西保見小学校	1年

《優秀作品》 1点……………7ページ

《佳作作品》 1点……………8ページ

交通安全ポスターの部

《最優秀作品》 6点……………表紙・裏表紙

①豊田市長賞	古賀 平大	根川小学校	4年
②豊田市議会議長賞	青木 寛菜	駒場小学校	3年
③豊田警察署長賞	石井 結衣	浄水小学校	6年
④足助警察署長賞	橘 凧	足助中学校	1年
⑤豊田市教育委員会賞	佐川 彰	五ヶ丘東小学校	3年
⑥豊田市交通安全市民会議会長賞	勝上 莉琉	飯野小学校	5年

《優秀作品》 8点……………9ページ

《佳作作品》 12点……………11ページ

交通安全標語の部

《最優秀作品》 1点……………13ページ

①豊田市交通安全市民会議会長賞	伊藤 鈴真	浄水北小学校	1年
-----------------	-------	--------	----

《優秀作品》 6点

《佳作作品》 6点

交通安全まんが……………15ページ

※作文中に引用されるデータは、制作者本人の調査によるものです。

※作文中の表現については、原文を基本として掲載しておりますが、誤字、脱字については、事務局で修正させていただいております。

『交通安全と母の言葉』

井郷中学校 3年 大芝 祐衣

「ドンッ。」生まれて初めて聞いた言葉では表せない衝突音。私は感じたことのない恐怖に襲われた。何年経つと忘れられることはない。

昨年のある日、私は習い事の教室に行くために歩道を歩いていた。毎週のルーティーンで、普段と変わらず鼻歌を歌い歩いていた。

ある十字路の交差点に近づいたとき、横方向の信号が青色から黄色に変わるのを見た。教室はその交差点の先であり、前方向にも横方向にも渡る必要がある。どちらを先に渡ってもよかった。その日は、お月謝を払う日ですこし急いでいたので、信号が黄色だが、渡りたいと走った。でも、ギリギリ間に合わず、もう渡れないと諦めた。

前の信号が青色になり渡り始めたとき、「ドンッ」と、誰もが振り返るようなすごい音が聞こえた。驚いて見てみると、車と車が横断歩道の上で衝突していた。衝突の衝撃で車からはもうもうと白い煙が上がり、前の車の後方部分は、信じられないほどへこんでいた。

最初は突然のことで、何が起ったのかわからず、言葉もなくただ驚いていた。だが、ようやく状況が飲み込めてくると、全身に鳥肌がたった。横断歩道の真ん中で車がぶつかっている場所は、もし私が黄色の信号で無理に渡っていたら、自分が歩いていたであろう場所だということに気がついたからだ。

もし、黄色で渡っていたら。同じタイミングであの位置にいたら。そう考えると、指先が冷たくなり寒気が止まらなかった。

幸いにも歩行者に怪我人は出なかったが、少しタイミングが違えば、巻きこまれていたかもしれない。今日体験したような事故はどれくらい起きているのだろう。調べてみると、過去には、年間43万件あまりの事故が発生していた。事故を起こした人は、日タニニュースを見て何も思わないのだろうか。

「ヒヤリハット」という言葉がある。これは、事故の裏には、事故には至

らなかったがヒヤリとしたり、ハッとさせられたりするような危険なトラブルがたくさん隠れていることをしめした言葉である。実際、体験したことがある人もいるのではないだろうか。

私も体験した。ある日、友達との待ち合わせ場所に向かう途中、路地をものすごいスピードで走ってくる車を見た。怖いからと道路の端まで下がり、車が通り過ぎるのを待った。すると、その車が、横を通り過ぎる時に、私の方へ少しハンドルを切ったように見えた。「ハッッ。」服の袖が車に擦れた。怖かった。

私は後ろへ下がれるだけ下がっていたのに。どうして私の方へハンドルを切ったの。身体はギリギリぶつからなかったが、本当にヒヤリと身体が震える思いをした。

我が家では、小学生の頃から、出かけるときに、毎日母が玄関で見送ってくれる。「いってらっしゃい。気をつけて。」「とどんなに忙しい時でも言いに来てくれる。小さな時にはわからなかったが、今の私にはどんな思いが込められているのか理解できる。

私は、車は日常生活に必要で、とても便利なものだと思う。それでも、運転に慣れてしまい緩んだ気持ちでいると、事故を起こしたり事故に巻き込まれたりしてしまうかもしれない。わざとでなくても、誰かが悲しい思いをするのを防がなくてはいけない。運転者は、近くにいる歩行者を、自分の家族だと思って運転してみてはどうだろうか。自分が大切に思っている人のことを考えれば、運転に責任を持つと思う。

今の私は、歩行者であるが、大人になったら車を運転する側になる。そうなったときに自分の身勝手な行動で誰かを傷つけてしまうことがないようにしたい。

私は今日も出かけるために玄関のドアを開ける。母が言う。「いってらっしゃい。気をつけてね。」「そして私の一日が始まる。事故に遭う人が一人でも減ることを祈りながら。

『交通事故を減らして住みやすい町に』

豊田西高等学校 1年 稲吉 和奏

みなさんは自転車に乗っていてヒヤッとした経験はありませんか？

曲がり角で車が来てぶつかりそうになったり、せまい道で手元がぶれて転びそうになったり。私は高校生になってから自転車通学になり毎日自転車に乗って登下校しています。なので、自転車に乗っているとそういう危険と常に隣り合っているように感じます。実際に、自転車に関連する事故は事故全体の割合を多く占めています。さらに、警察庁が提示している自転車関連の交通事故件数によると事故そのものの発生件数は減っているものの小学生や中学生に比べて高校生の事故が一番多いことが分かりました。これらから、高校生である私たちが少しでも意識を変えて交通事故を減らすことができ、さらに住みやすい町にもなるのではと考えました。

そのために私が意識していることは2つあります。

1つ目は、周りの状況をしっかりと確認して乗ることです。特に、朝は車の人も歩行者も急いでいて自分のことで必死になっていると感じます。私は実際に登校時、車と自転車が接触しているところを間近で見ることがあり、自分のことではなかったけれどももしかしたら自分が同じようになっていたかもしれないなと思いつても怖かったのを覚えています。そのときの車の人の様子を思い出してみると、一方しか見ておらず反対側からやってくる自転車に気づいていませんでした。そのように車の人が毎回自転車に気づいているとは限らないので自分から気を付ける必要があると感じました。他にも、朝は出勤する人だけでなく集団で来る学生の登校時にかぶることがあります。その時、道がせまかったりする場合に無理やり進んでいくのではなく広いところで待ってから行くように

心がけています。そのようにすることで自ら危ないことをしないのでヒヤッとすることも減り安心して乗ることができています。

2つ目は、謙虚な気持ちを持って乗ることです。車が止まってくれた時に、「ありがとう」の意味を込めてお辞儀をしたり、横から車が出てきたら一度止まるようにしています。自転車に乗る時、自己中心的に私が、私がと乗っていたら大きい事故につながりかねません。だからこそお先にどうぞという気持ちを持って相手ファーストを大切にしたり、車の人とアイコンタクトをとってコミュニケーションを図るなどの工夫をするようにしています。実際にお辞儀されることについて車側である母に話を聞くと、「やっぱり少しでも早く渡ろうと心がけてくれたり、お辞儀をしてくれると気分が良くなるよね。」と話してくれたことから私たちが少しでも車側に対して感謝の気持ちを示すことでお互いにいい気持ちになりより安全に運転しようという気持ちができるのではないのでしょうか。

愛知県は他の都道府県と比べて交通事故の多い県です。そこで、私の住む地域では自転車利用時の交通ルールを守ることや、ヘルメットをかぶることを推進するなどの条例を定めています。なので、私たちはそのような地域の政策を積極的に調べて自分たちで改善していく必要があると思います。

私は、これらのことから周りを確認しながら乗ること、相手ファーストを心がけて譲り合いを大切にすることを今までもよりも意識して乗るようになりたいと思いました。

交通事故を減らして住みやすい町づくりを一緒にしませんか？

『口常にひそむ危険性』

保見中学校 3年 深見 快晟

僕は、自転車通学をしています。僕が自転車を通る通学路は、大通りより一本中に入っている道なので、大通りが渋滞していると抜け道として通る自動車が多いです。細い道を、急いでいるのかスピードを出して通っていく車が何台もいます。そのため、曲がり角やカーブでいきなり車が出てきたら怖いなあと思います。

僕は、小学生の頃にとっても怖い思いをしました。僕の家の前は、車が通り抜けることはほとんどないような、家族しか通らないような道路になっています。なので、道路でも危険だと思わず遊んでいました。でも、この細い道走って、角を曲がったとたん、1台の車が目の前を通り過ぎました。びっくりしてとっさによけました。あと1歩出ていたら、車にぶつかっていました。本当にヒヤッとして怖かったです。

あれ以来、曲がる時は一度立ち止まったり端を歩いたりするようになりました。朝登校する時も、あの時のことを思い出して、曲がり角では気を付けるようにしています。ただ、朝の時間帯は、どうしてもあわててしまいがちです。それは車も同じだと思います。時間に余裕があったら、車も自転車もスピードを出すことなく、安全に通ることができると思います。

朝、母が見送ってくれる時に必ず「気を付けていきなさいよ。スピードを出しすぎる事故に遭つかも知れないから。」と声を掛けてくれます。毎日その言の母に、「わかってるわ。」と思いつながら聞き流してしまっていました。でも、もし事故に遭ったら、両親や周りの人を悲しませてしまうことになると思います。だから僕は、母が毎日声を掛けてくれることに感謝して、時間に余裕をもちたいと思いました。

そして、自転車そのものについても、ブレーキのきき具合やタイヤの状態などを点検することが大事だと思いました。自転車の事故は、車とぶつかるだけではなく、歩行者とぶつかることもあるとニュースや人からの話で耳にします。そういった事故もたくさん起きています。もし自分が歩行者にぶつかってしまったらと思うと、本当に怖いんです。僕は、幸い自転車で事故をしたことはありません。でも、雨の日など濡れている坂道や曲がり角で、自転車ごと転んだことが何回かあります。そこにもし車が来ていたら・・・。転んだことを母に話すと、「車がいなくて本当に良かったね。スピードが出ていたんじゃない？気を付けてね。」と心配していました。毎日通る道だから、と油断することがあります。事故につながらないためにも、しっかり前を向いて運転したり、危ないと思う所では自転車を押して歩いたりすることも大切だと感じました。

自転車には守らなくてはいけないルールもたくさんあることを知りました。イヤホンをつけて自転車に乗ることも、危険です。僕も実際にそういう人を見かけたことがあります。イヤホンをすることで、周りの音が聞こえないことがあり、事故につながると思います。スマホなどを操作しながら運転して、歩行者と接触することもあるのです。自分の運転一つで、被害者にも加害者にもなってしまいます。自分と周りの人の命を守るために、まず自分ができることをしていきたいです。

僕は、これからも自転車に乗ります。安心安全に自転車通学をしていきたいと思います。一人一人がルールを正しく守ることで、一つでも交通事故が減ることを願っています。

『身近にある交通安全』

豊田西高等学校 1年 小久保 那 菜

交通事故は身の回りで起きています。15年ほど前に私の中学校の卒業生が交通事故で亡くなりました。その方は学校から家に帰った後、友達と遊ぶために夕方、自転車に乗っていたとき、車と衝突してしまったと聞きました。その方の石碑は今も中学校に置かれています。事故が起きたところは当時、交通量は多いところでしたが、信号がありませんでした。数年前になってようやくつきました。また、私の同級生も自転車で登校中に車と衝突しました。命は無事でしたが、私はその話を聞いたとき、私ももっと注意しなければいけないと思いました。

私は今は登下校に自転車は使っていませんが、中学生のときは毎日登下校で使っていました。中学校に入学した最初の頃、私は、後ろにくくりつけた重い荷物、細い道、急な坂に慣れておらず、ふらふらしながら学校に通っていました。雨の日や細い道で転んだこともありました。毎年4月5月になると、新1年生が前の私みたいにおぼつかない様子で自転車をこいでいます。なので私たちは車や歩行者だけでなく、自転車も気をつける必要があります。慣れてないときも危ないけれど、逆に慣れてから油断してけがをしてしまう人もいました。また、自転車で乗っていると、加害者になってしまう危険性もあります。普段使うときもあるので、周りを見て運転したいです。今は毎日歩いて学校に通っています。車や自転車の人に迷惑がかからないように広がりすぎずに歩くようにしていきます。

私は最近、歩いていて歩きスマホをしている人やイヤホンをつけながら歩いている人をよく見かけます。また、私は見たことではないですが、スマホをしながら車を運転している人がいるとニュースを目にしたことがあります。それによって交通事故が起き、亡くなっている人がいると聞きました。自分の不注意で自分に何か起きるのともかく、他者を傷つけることはしたくないです。私もいつか車を運転するときは、責任を持って運転し

たいです。今は技術が進歩して、危ないときに自動でブレーキがきいたりするようになってくるものもあります。これによって事故数が減ることはいいと思います。しかし、もしこれによって運転手の交通安全に対する意識が低くなっているのだとしたら、少し趣旨が違ってきてしまっているのではないのかなと思います。もし危なくなっても、ブレーキが作動するくらいいやと思ってしまうたら、自分の意志で安全に運転しようと考えているように思えません。交通事故をなくすには技術も必要かもしれませんが、一人一人の意識が大事だと私は思います。

中国では、歩きスマホをしている人が多いため、信号を下にして、歩きスマホの人が気づくようになっていくのをテレビで見ました。中国で歩きスマホがどう思われているのかは分からないけれど、日本ではやらないほうがいいのかなと思いました。

私が交通事故防止のために実践していることは、横断歩道を渡るときに、止まってくださった運転手の方にお辞儀をして、できるだけ速く横断歩道を渡ることです。これが直接交通事故防止に繋がるかどうかは分かりませんが、しかし、運転手の方たちは、朝は出勤などで特に急いでいる時間帯だと思います。そのようなときに、私たちが特に周りのことを気にせずに渡っていたら運転手の方たちはいららうと思います。実際、交通事故を起こしてしまった人が、「急いでいたから」と言っていたのを見たことがあります。なので、少しでも速くスムーズに渡り、お辞儀で感謝の気持ちを伝えられるようにしています。私が家族と一緒に車に乗っていて、横断歩道で止まったときに、とても感じ良くお辞儀をしている子がいきました。そういう子を見ると、とてもいい気分になりました。私も形だけのお辞儀ではなく、気持ちを込めてお辞儀できるようにしたいです。

今回、この文を書いたことで改めて交通安全について考えることができました。毎日のように起きている交通事故を他人事と思わずこれからも生活していきたいです。

『いっしょにせんぱんちかいらのいっしょ』

清水小学校 2年 永田 悠人

いっしょにせんぱんちかいらのいっしょ

いっしょ

「きちんとならなごかえりませぬ」

いっしょ

「とびだしてはごませぬ」

いっしょ

「おつだんぼごうでは、手をあげて右を見て、左を見て、もういちど見てわたりませぬ」

ぼくのかよっているこしみず小学校には、こういっつちかいらのことがあある。ぼくの中学生のおにいちゃんも、ぼくのおかあさんもそうで言える。もちろん、ぼくも言える。ぼくのおかあさんも小学生のとき、こしみず小学校の下校の時にかならず言っていたらしい。まじり言っつから、大人になった今でもおぼえてるっつ言っつ。

ぼくのすんでいるところには、あじづままもるくんといっつかめのマスコットキャラクターがいる。おにいちゃんが、こどもえんにいる時からずっつといるらしい。おかあさんがいっつには、こしみず小学校のこどもたちのいっつとあんぱんのためにいるみたい。ごうも、こしみず小学校のエリアは、交通じごが多い場じょうらしい。黄色いぼつと黄色のはたをいっつもっているキャラクターのあじづままもるくんは、みんなに注いっつてもらうた、てきたキャラクターらしい。

こしみず小学校のまわりにはきけんな場じょうがたくさんあると聞いた。ぼくが学校に行くときにつかう道ろも、そんなに大きな道ろではないけれど、たくさんの車はごっつっている。自転車の人もたくさんいる。それ

に、おつちや田んぼも多いから、あるいてる人もいて、せまい道を、いろんな人がごっつっているごがわかる。

ぼくは時々、おかあさんやおとうさんと自転車にのって、近くのスーパーにでかけるごがある。その時はいっつも、一列になって走る。そして、おかあさんやおとうさんに、「スピードは出さない。車がごごから出てくるかわからないから、よく見て走る。」と、のる前にいっつも注いされる。いっつじよに走っつても、「そい、止まって」「その角から車が出てくるかもしれないから、スピード落とっつて、いっつたんでいっつて」と、いっつち言っつてく。

もっつ自由に行りたいなと思っつときもある。でも、見えないごころから、急に車や人がとびだしてきてびっくりするごもあるから、おかあさんやおとうさんの言っつごを聞いておいてよかったなと思っつごの多い。

そっつ考えると、こしみず小学校の交通安全ちかいらのことは、どんな時でもごかえる。学校の行き帰りだけではなくて、自転車にのっているときもごかえる。ぼくたちのこしみず小学校エリアはきけんちたいと言われるけれど、みんながルールをまもれば、安全エリアにもなると思っつ。ちかいらのことはもっつと多くなの人に知っつてもらい、みんなのあごごばになるごいっつなと思っつ。



『じゅうじゅうルールをまもろう』

西保見小学校 1年 山川 遼夏

わたしはおかさんとほぐらじかんにいって、けむりがもくもくも大きなじこをみました。トラックがもえていって、けむりがもくもくもくってしまいました。そしてじゅうじゅうしゃやパトカーがわたしのくるまのまをいそいでとおっていききました。じこでくるまがじこけすはやくはぐじかんにいきたいとおもいました。でもわたしはこわくてブレーンケットにもべって、おかさんのくるまがもえなくてよかったです。おもい、じこのひとがけがをしていないかしんぱいしました。あとでニュースをかくにしたらトラックのひとはだいじょうぶだったそうです。わたしはよかったですとおもいました。それからわたしはくるまにのっていてあぶないとおもったことがあります。それはトラックのひとがあかしんじこのなにするんでいたことです。トラックは大きいのでくるまどぶつかると、くるまがつぶれてしまうかもしれないからです。だからじゅうじゅうルールをまもることはだいじなことで、まもらないことはダメなこととおもいます。まもらないと、まえにみたようなじこになるかもしれないません。わたしはじゅうじゅうルールをまもっています。じこはおとなとおうだんほどつをわたる、くるまやトラックがきているときはとまる、あかのときはまつ、あおになったらわたる、しんじこがないおうだんほどつはわたるまえに「みぎ、ひだり、みぎ、くるまよし」といってくるまがきてないかかくにんしてわたります。それからわたしはじてんしゃやブレーブボードにのることが好きですが、かならずヘルメットをかぶり、じこづるのまんなかでやらないようにいつもきをつけています。じてんしゃやブレーブボードはスピードがていじこづるでめんどくさいからとくるまなどがとつぜんくるかもしれないためひかれるとあぶないから

です。なのでわたしは、じてんしゃはじこづるのしろいせんのなかで、ブレーブボードはいえのちゅうじゅうしゃじゅうやじこづるでれんじゅうしています。

がじこづるでもじゅうじゅうルールをおしえてもじゅうじゅうまわってくれなくてありがじこづるじこづるがありました。せんせいのおはなしをみんなできいてかえりにやりました。がじこづるのちかへのおうだんほどつはしんじこづるがないので、わたるときにくるまがとまってくれたときはありがじこづるじこづるおじぎをしてまわってまわっているのじこづるじこづるじこづるじこづるじこづるのルールはようちえんのときにおしえてもらいました。くるまのしんじこづるのいろはあおあかきいろがあります。あおはすすんでオッカーです。あかはとまりまじゅう。きいろはもうすべあかになるじこづるしんじこづるのわたりたいけせん。あるいているひともおなじであおとあかがあります。あおですすむけど、きちんとおうだんほどつをわたらないといけません。

おうだんほどつをわたっていきになったことがあります。じてんしゃのえがかいてあるみちがあったことです。おかさんにきいたらおうだんほどつには、ひとがわたるみちとじてんしゃがわたるみちとふたつにわけてあって、じてんしゃのほつがスピードがはやいので、ひとにぶつからないようにあんぜんのためわけてあります。じてんしゃのえがないおうだんほどつはおなじようにわたっていいのかタブレットでじこづるとおしてあるかないといけなとわかりました。

わたしはさくぶんをかいておもったことがあります。じこにあつのはこわいので、おうだんほどつのはしんじこづるがあおでもまがってきたくるまがとまってくれなかもしれないので、かくにんしてからわたったりじてんしゃのルールをしっかりまもろうとおもいました。

『あの経験を期に』

豊田西高等学校 1年 櫻田晏士

僕の通っていた中学校は家から4.5キロメートルくらい離れた所がありました。中学1年生になり、あまり慣れていない自転車登校の日々が始まりました。

ある日の朝、僕は寝不足で家を出るギリギリの時間まで寝ていました。頭の中は「急がないと遅刻してしまう。」ということまで埋め尽くされていました。僕の家は山の中の団地にあるため、山を越えるため、長くて急な坂が連なっていました。しかし、あせっていた僕は安全の事など考えず、とにかくスピードを出していました。そのため、急に止まれるようなスピードではなかったのです。急いでいる内に視野が狭くなっていく次の瞬間、ポストの裏側から赤い車が見えたのです。視界に入った瞬間「あ、もうダメだ。」と思うつもブレーキを握ると「シャー」というタイヤがアスファルトの上をスリップした音が響き渡りました。結果的には、衝突は免れることができました。しかし、あと1秒、家を出るのが遅れていたら。あと1秒、車に気づくのが遅れていたら。あと1秒、ブレーキを握るのが遅かったら。僕はもうこの世に存在しないことになっていたかもしれません。例えヘルメットをかぶっていたとしても腕が折れていたかもしれないし、何針も縫うことになっていたかもしれない。短い人生で終わりを遂げるところでもありました。今を楽しく過ぎていくからこそ、あの時のことを思い返すとゾッとします。

事件と言いつのは大げさになってしまつかもしれませんがその事が起こってから僕は、車道の隅を走行するようになりました。今までは車道側を走行することに少し抵抗がありました。車との距離が近いからです。しかし、車道側を走行し始めて気づいたことがありました。車道側を走

行した方がはるかにメリットが多かったことです。歩道を走行する場合には、歩行者との接触を気にすることがなくなり、あの時のように車が急に飛び出してきても少し距離があるので十分に対応もできます。車道側を走行するときには、後ろから来る車には注意しないといけません。車のドライバーさんたちは自転車がいると距離をあけて、スピードを落として走行してくれます。

また、朝ギリギリの時間にならないようにすることが大切だということも感じました。もし急いで出て自転車に不備でもあったら、十分に気をつけていてもブレーキがきかない場合もあるので衝突してしまうのはあたり前のことです。なので今ではスピードを出さなくても間に合う時間にかかることを心がけています。その心がけにより交通安全面だけでなく、生活習慣の面でも健康に過ごせるようになりました。

しかし、最近気になっている事は、高校生になってから学校に携帯電話やスマートフォンを持って来る人が出てきました。その結果、スマホを見ながら片手運転をする人が増えたように感じます。自転車に乗りながらスマートフォンなどを使うことは、歩きスマホよりも注意する必要があります。理由は、被害者にもなりうるし、加害者にもなりうるからです。車にひかれたり、人をひいてしまうことがあるでしょう。なので自転車に乗りながらスマートフォンを使用するのは常に気をつけています。

車にぶつかりそうになったことがあったからこそ僕は意識が変わりました。今ではあの経験があったからこそ安全に運転が続けられているのだと僕は思います。

『交通事故の体験から』

豊田西高等学校 1年 大島直也

僕は、小学校6年生の2月に交通事故にあった。その日の出来事はかなり鮮明に覚えている。

その日は、学校から家に帰った後に、友達と遊びに出かけていた。遊び終わり、家に帰ろうとしていたら、雨が降ってきたのでかさをさした。歩いているうちに信号のない横断歩道にきた。しかし、その日は自分側の車線の道路がかなり渋滞していて、止まっている車で向かい側の車線の道路の車がほとんど見えなかった。今の僕なら、先に渋滞側の横断歩道を渡り、横断歩道の途中で止まり、向かい側の車線の車を確認して渡るか、近くの信号のある横断歩道の場所まで行き渡るだろう。しかし、その日の僕は何を考えていたのか、左右をしっかりと確認せずにそのまま小走りで渡ってしまった。そしてタイミング悪く車が走ってきてぶつかってしまった。幸い、車が急ブレーキをかけてくれたし、その車の先端が低く、僕もとっさに受け身をとれたので少し前に押されただけで骨も折れず手をすりおいただけです。ぶつかったときの印象としては、本当に一瞬の出来事だったのだが、当てる瞬間だけは時間が止まったように感じたし、当たって少しはげがをして痛いはずなのに、まったく痛みもなく、とても不思議な感覚になった。

ぶつかった後は、ぼーっとして何をしたらいいかわからず立ちずくんでいた。すると、運転手が出てきて、安全確認をして警察を呼んでくれた。警察を待っている間、ぼくはずっとそわそわしていて運転手は僕に家の電話番号を聞き、電話し、母を呼んでくれた。警察よりも先に来た母は、僕に怒ることなく、大丈夫？と聞いてくれた。この時僕は母の優しさをとて感じ身に染み、同時に、心配させてしまっているというとても大きい罪悪感が芽生えた。そして、警察が来ると、僕と運転手

に事故の状況を聞いた。終わった後、いろいろなことを話し無事帰ることができた。家に帰ってきてやっと無事終わったと思っていたが、その後もかなり忙しかった。運転手が家に謝罪しに来てくれたことに対しての対応や、次の日に学校を休み念の為病院に行って検査したりなどかなり忙しかった。検査の後、学校に遅刻として行くクラスメイトの皆が心配してくれて、とてもうれしかったが、たくさん聞かれて少し対応に困った。

その2日間は、いろいろな出来事があったが、今ではとてもいい体験だったと思っている。なぜならその日から、昔とは違う行動をするようになり、今でもその行動がくせ付いて、普段から交通安全に気をつけるようになったからである。

1つ目は、横断歩道を渡るときだ。やはり、今回の交通事故の一番の原因であるため、もう二度と同じような交通事故が起こらないようにしなければと思ったからだ。気をつけていることは、しっかりと横断歩道で渡るといことだ。慣れてくると、横断歩道の無い場所で渡る人を多く見るが、いつかは危ないようなシーンに出会うかもしれないし、実際に、友達が昔そのようなことで事故にあったのですごく危機感を感じている。2つ目は、交通ルールをしっかりと守ることだ。そんなのあたり前かもしれないが、意外としっかりと守れる人の方が少ない。例えば自転車に乗る時は左車線を走らなければならないが、右車線を走っている人も少なくない。交通ルールを守ることが簡単なことではないかもしれないが、しっかりと守れば交通事故も減ると思う。

最後に、交通事故にあつて軽いけがを負ってしまったが、同時に普段から交通ルールを守ろうと意識することができるようになった。これからも交通事故にはあわないようにし、加害者にもならないように日頃から気をつけて過ごしたい。



優秀／都築 蒼大 (井郷中1年)



優秀／久野 莉実花 (若林東小3年)



優秀／山田 菜生美 (猿投台中1年)



優秀／岡田 佳歩 (青木小4年)



優秀／相良 心菜（猿投農林高1年）



優秀／小林 巴菜（井郷中2年）



優秀／常盤井 悠（豊田西高1年）



優秀／子林 結奈（豊田高1年）



佳作／滝澤 柚月（梅坪小4年）



佳作／新居 菜和（五ヶ丘小2年）



佳作／鈴木 陽愛（竹村小4年）



佳作／溝口 咲恵（梅坪小3年）



佳作／中島 遙人（中山小5年）



佳作／山根 彩歩（若林東小3年）



佳作／塩崎 琴子（豊田西高1年）



佳作／山田 大地（寿恵野小6年）



佳作／二川 あかり（豊田高1年）



佳作／岩下 琴実（堤小6年）



佳作／山本 葉輝（豊田西高1年）



佳作／河野 美彩妃（豊田西高1年）

交通安全標語の部

最優秀作品

「ありがとう」ペこりしてから わたるぼく

浄水北小学校 1年 伊藤 鈴真

◎は優秀 ○は佳作

歩行者の交通事故防止

◎てをあげて 聞いて かくにん 見て かくにん 若林西小学校 2年 楠本 聖

○気付いてよ 信じて挙げた 小さな手 美山小学校 6年 中野 一汰

子ども・高齢者の交通事故防止

◎ぼくの手は 赤しんごうだよ 止まってね 竹村小学校 1年 守屋 敢太

自転車の安全利用促進

◎ヘルメット 小さな物でも 大きな役目 豊田高等学校 1年 小出 琉瑚

○じてんしゃは よこにならばず たていちれつ 小清水小学校 1年 稲吉 彩香

○自転車も 乗り方一つで 危険車輛 高嶺小学校 6年 日置 瑛斗

ドライバーの安全運転促進

- 行けるだろう 軽い考え 重い事故
- ゆずりあう えがおのママが だいすきだ
- ゆとりもち アイコンタクトで じこゼロに

豊田高等学校 1年 安福 結衣
美山小学校 1年 望月 星哉
美山小学校 3年 岩瀬 慶

とまってくれてありがとう運動の推進

- ありがとう めとめであいさつ えがおのわ
- 目をあわせ とまってくれて ありがとう

加納小学校 1年 青木 創平
美山小学校 6年 堀田 遼介

交通安全全般

- 素敵です 見る待つゆずる 心がけ

一般 永田 千明





令和3年度 交通安全作品 応募・審査結果

交通安全作文の部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校（低）	8	2	0	0
小学校（高）	6	0	0	0
中 学 校	33	2	0	0
高校・一般	76	2	1	1
合 計	123	6	1	1

交通安全ポスターの部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校（低）	505	2	1	3
小学校（高）	535	3	1	5
中 学 校	387	1	3	0
高校・一般	510	0	3	4
合 計	1,937	6	8	12

交通安全標語の部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校（低）	735	1	3	3
小学校（高）	737	0	0	3
中 学 校	11	0	0	0
高校・一般	341	0	3	0
合 計	1,824	1	6	6

総計（作文・ポスター・標語）

	応募数	応募学校数
小学校（低）	1,248	54
小学校（高）	1,278	
中 学 校	431	19
高校・一般	927	3
合 計	3,884	76





足助警察署長賞

橘 凧 (足助中1年)



豊田市交通安全
市民会議会長賞

勝上 莉琉 (飯野小5年)



豊田市教育委員会賞

佐川 彰 (五ヶ丘東小3年)



豊田市交通安全市民会議事務局

豊田市役所 交通安全防犯課内

〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60

TEL:0565-34-6633 FAX:0565-32-3794

HP <https://signal.toyota.aichi.jp/>

